



1

1 絶対値…数直線上で、ある点に対応する点と原点との距離。

(例) 絶対値が2になるのは-2と2である。0の絶対値は0である。

2 (2) まず、表の空欄部分をうめる。

(平均) = (合計) ÷ (日数) または (平均) = (基準) + (差の平均)

3 素数…1とその数自身のほかには約数のない自然数。

素因数分解…自然数を素因数の積で表すこと。

(例) 12を素因数分解すると $2^2 \times 3$

$$\begin{array}{r} 2 \overline{) 12} \\ \underline{2} \\ 6 \\ \underline{2} \\ 3 \end{array}$$

4 (6) (おつり) = (出した金額) - (代金)

(8) (時間) = (道のり) ÷ (速さ)

(10) 3割引きの値段とは $10 - 3 = 7$ (割)の値段である。

5 $\bigcirc > \Delta \dots \bigcirc$ は Δ より大きい。

$\bigcirc < \Delta \dots \bigcirc$ は Δ より小さい。(\bigcirc は Δ 未満)

$\bigcirc \geq \Delta \dots \bigcirc$ は Δ 以上。

$\bigcirc \leq \Delta \dots \bigcirc$ は Δ 以下。

7 式を簡単な形になおしてから代入するとよい。

(例) $x = -3$ のとき、 x^2 の値は $(-3)^2 = 9$ である。 ※ $-3^2 = -9$ としないこと。

- 8 (1) $3a$ を右辺に移項する。→両辺 $\times (-1)$
 (2) $-2y$ を右辺に移項する。→両辺 $\div 3$
 (3) 両辺 $\div 3 \rightarrow$ 両辺 $\div b$ ※ $3ab = 3 \times a \times b$
 (4) 両辺を入れかえる。→両辺 $\div 2 \rightarrow +b$ を右辺に移項する。

13(証明) 連続する5つの整数のうち、最も小さい数を n とすると、

5つの整数は n , $\boxed{+1}$, $\boxed{+2}$, $\boxed{+3}$, $\boxed{+4}$ と表される。

$$\begin{aligned} \text{これらの和は, } n + \boxed{+1} + \boxed{+2} + \boxed{+3} + \boxed{+4} \\ = \boxed{} \\ = 5 \left(\right) \end{aligned}$$

$\boxed{}$ は整数だから $5 \left(\right)$ は5の倍数である。

よって、連続する5つの整数の和は5の倍数になる。

14(証明) 2けたの自然数は、 $10x + y$ 、入れかえた数は $\boxed{}$ と表すことができる。

$$\begin{aligned} \text{これらの差は } (10x + y) - \left(\right) &= \boxed{} \\ &= 9 \left(\right) \end{aligned}$$

$x - y$ は整数だから、 $9 \left(\right)$ は9の倍数である。

よって、2けたの自然数と、その数の一の位の数と十の位の数を入れかえた数の差は9の倍数になる。

15 (1) 20, 32, 44, 56 と 12cm ずつ増えているから、

$$20 + 12 \left(\right) = \boxed{} \text{ (cm)}$$

(2) (考え方) Bの並べ方でできる図形の周囲の長さを n を用いて表す。

AとBの並べ方による差を n を用いて表し、これが $4 \times (\text{整数})$ の形になることを示す。